

1.先進的に外国人材の受入制度を活用し小ぎくを生産(新垣 充氏)

【経営の概況(令和4年9月現在)】

所在地 : 沖縄県糸満市

従業員 : 特定技能外国人3名(全てインドネシア人)、技能実習生5名(インドネシア人4名、中国人1名)
日本人スタッフ2名、パート1名(繁忙期のみ) ※外国人材は全て男性

経営規模 : 合計3.3ha うち露地2.3ha、平張施設1ha

作付延べ面積5.5ha(全て小ぎくを作付けて、春彼岸用露地1ha以外の2.3haは年2回作付け)

ポイント

☆ 平成21年度から外国人材を受入れ。段階的に規模を上げ、就農当初と比べて経営規模は3倍に拡大。

【農業振興】

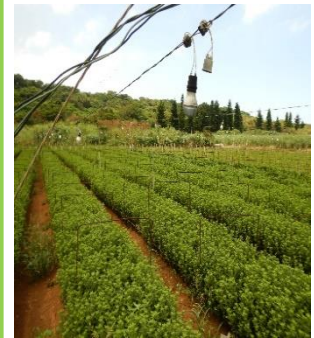
- ・ 平張施設は国・県の事業を活用し、災害に強い栽培施設(平張施設)を整備。
- ・ 年末年始用をメインに露地と平張施設で合わせて3.3haの大規模な小ぎくの栽培に取り組んでおり、JAおきなわを通じて9割以上を県外へ、県内は沖縄県くみあい生花(株)に出荷。
- ・ 連作障害対策として、ビニールを用いた太陽熱土壤消毒を実施(平張施設は毎年全て実施)。

【外国人材】

- ・ 特定技能外国人3名は県内の登録支援機関を通じて令和3年10月に直接雇用。
- ・ 技能実習生4名のインドネシア人は令和4年7月に県外の監理団体を通じて受入れ。
- ・ 休憩時間は季節に合わせて変動し、夏場の休憩は3時間(11時～14時)。
- ・ 外国人材の希望もあり、繁忙期は超過勤務をしてもらって、割増賃金を支給。
- ・ 作業は栽培管理全般、選別・出荷を担当(農薬希釈、トラクターの操縦は新垣氏が担当)。

【外国人材の居住環境等】

- ・ 新垣氏が自己所有する集出荷施設と隣接して外国人材用の住居を整備(Wi-Fi完備)し、車も提供するなど外国人材の住みよい環境づくりに尽力。
- ・ 居住地域は外国人材を受け入れている農家が多く、コロナ禍の前は糸満ハーリーや大綱引き等の地域行事に積極的に参加し、地域住民との交流も盛んであったため、外国人材は地域に溶け込んでいる。



露地栽培の小ぎく(糸満市)



国・県の補助事業により整備された災害に強い栽培施設で栽培されている小ぎく

2. 特定技能外国人らの活躍により小ぎく等花きを安定的に生産(田場 竜太氏)

【経営の概況(令和4年10月現在)】

所在地 : 沖縄県うるま市

従業員 : 特定技能外国人1名、技能実習生3名、特定活動1名(特定技能に移行手続中)、日本人パート男女1名ずつ ※外国人材は全てベトナム人男性

経営規模 : 合計3.3ha うち露地 2.3ha、平張施設 1ha

小ぎく、スプレイぎく、ゆりを作付け。作付延べ面積5ha(きく類ほ場で年2回作付け)

ポイント

☆ 外国人材受入れによって管理が行き届くようになり、作付延べ面積及び収量が増加し、品質も向上。

【農業振興】

- ・ 小ぎく(全体の6割)を中心に、スプレイぎく(同3割)やゆり(同1割)の生産も行っており、ほとんどを沖縄県花卉園芸農業協同組合(太陽の花)を通じて県外へ出荷。
- ・ スプレイぎくは太陽の花オリジナルブランドである「ウリズン」を生産。
- ・ 田場氏は沖縄県花卉園芸農業協同組合理事を務め、花きの生産振興、販売強化等に尽力。また、スプレイマム専門部会長も務め、勉強会等により部会員の資質向上等を図っている。

【外国人材】

- ・ 平成29年度から技能実習生を県外の監理団体を通じて受入れ。特定技能外国人は田場氏の下で技能実習を修了し、令和3年6月に特定技能に資格を移行し、勤続5年目。
- ・ 作業は苗の管理から選別・出荷まで担当(トラクターの操縦、農薬の希釈は日本人担当)。
- ・ 外国人材は、毎日の朝礼で作業内容などを積極的にメモし、農業に真摯に取り組む。
- ・ 登録支援機関は特定技能外国人と毎月面談し、職場や生活上の相談への対応、必要な助言・指導を行い、田場氏とともに外国人材が心配なく生活できるよう配慮を欠かさない。

【外国人材の居住環境等】

- ・ 田場氏がほ場近くにアパート2室を借り上げ、外国人材は自己所有の自転車やバイクで通勤。
- ・ 年1回ビーチパーティを開催し、従業員の誕生日にはお祝いをして懇親を深めている。
- ・ 外国人材は近隣農家とも仲が良く、野菜等をもらって食材費を抑えており、田場氏は花きを近隣農家にお裾分けして、地域で外国人材の交流が長く続くよう気遣っている。



左から田場氏、特定技能外国人(うるま市)



国・県の補助事業により整備された災害に強い栽培施設で栽培されている小ぎく

3.特定技能外国人らを受け入れて生産が安定し、労働生産性も向上(上地 一樹氏)

【経営の概況(令和4年10月現在)】

所在地 : 沖縄県読谷村

従業員 : 家族1名(経理等事務担当)、日本人4名(男女2名ずつ)、
特定技能外国人3名(ベトナム人男性2名、女性1名)、技能実習生2名(インドネシア人男性)

経営規模 : 合計3ha うち露地33a(小ぎく)、平張施設2.3ha(同)、ダッチハウス33a(トルコギキョウ)
作付延べ面積4.3ha(小ぎくほ場の一部で年2回作付け、夏場はオクラ栽培もあり)

ポイント

☆ 外国人材とコミュニケーションを深めることで、賃上げ交渉も本音で話し合うことができ、信頼関係を構築。

【農業振興】

- ・ 年末年始・春彼岸向けを中心に2.6haのほ場で小ぎくを大規模栽培。
- ・ 読谷村先進農業支援センター内のダッチハウスでは、沖縄県農林水産戦略品目であるトルコギキョウを栽培。花き類の全量を県外出荷。
- ・ 連作障害対策として、ソルゴー(緑肥)を毎年、全ほ場の3分の1程度ずつローテーションで植付け。

【外国人材】

- ・ 特定技能外国人材は県内の登録支援機関を通じて受入れ。うち男性2名は上地氏の下で技能実習(3年)を修了後、特定技能に資格を移行し、同氏が直接雇用。
- ・ 外国人材は栽培管理全般を担当し、苗の管理から選別・出荷まで任せており、特定技能外国人の男性2名は花ロボやトラクターの操縦もこなす。
- ・ 外国人材に不慣れな作業があると、上地氏がお手本を見せたり、一緒に作業をして習熟度合をよく確認している。
- ・ 特定技能外国人には班長手当をつけることで、技能実習生らも含めてキャリアアップへの意欲を高めている。

【外国人材の居住環境等】

- ・ 上地氏がほ場近くにアパート2室を借り上げて居住。業務用の車を通勤以外にも自由に使わせて、燃料代も一定額を支給。
- ・ 外国人材に休耕中の畑を提供して、収穫した野菜を日々の食材に利用させるなど福利厚生の実施を図っている。



外国人材らがトルコギキョウ植付けの準備を進めるダッチハウスほ場(読谷村)



1日の作業を終えた特定技能外国人(前方)と技能実習生(後方)

4.レタスとオクラの大規模栽培と安定生産を支える特定技能外国人(中村 伸次氏)

【経営の概況(令和4年10月現在)】

- 所在地 : 沖縄県糸満市
従業員 : 家族1名、特定技能外国人1名(ベトナム人)、
技能実習生6名(ベトナム人2名、インドネシア人4名) ※外国人材は全て男性
経営規模 : 露地2.6ha(うち半分が借入地)
作付延べ面積7.5ha(レタス2.6ha×年2.5回作付け、オクラ約1ha)

ポイント

- ☆ 外国人材受入れで借入地を段階的に増やすことができ、就農当初の経営規模1.3haから現在2.6haまで拡大。

【農業振興】

- ・ レタス、オクラ共に全量をJAを通じて出荷。2品目とも野菜価格安定制度を活用しており、産地の供給計画に基づき安定出荷が求められるが、中村氏は外国人材を受け入れていることで、大規模で安定した生産を行うことができる。
- ・ 中村氏は認定農業者でレタス生産部会に所属。同氏息子も新規就農関係資金や経営継続補助金を活用するなど、後継者として意欲的に農業に取り組んでいる。

【外国人材】

- ・ 7年前(平成27年)から積極的に外国人材を受入れ。
- ・ 特定技能外国人は中村氏の下で技能実習(3年)修了後、令和3年10月に特定技能に資格を移行し、県内の登録支援機関を通じて同氏が直接雇用。
- ・ 作業は植付けから選別出荷までほぼ全て担当(トラクターの操縦は中村氏が担当)。
- ・ 中村氏は普段からよく相談に乗ったり、食材を差し入れるなど外国人材と様々な形でコミュニケーションを取り、良好な人間関係の構築に努めている。

【外国人材の居住環境等】

- ・ 中村氏がほ場近くにコンクリート造りの住居を提供し、出退勤時は同氏息子と技能実習生1名が車で送迎。
- ・ 休日や仕事終わりに中村氏息子が近隣のスーパーへ買出しに連れていく。



左から特定技能外国人と現場で指揮を執る中村氏息子(糸満市)



特定技能外国人によるオクラ収穫作業の様子

5.本島北部で小ぎく、アレカヤシの生産を支える特定技能外国人(外間 宏喜氏)

【経営の概況(令和4年10月現在)】

所在地 : 沖縄県国頭郡恩納村

従業員 : 特定技能外国人2名、技能実習生1名 ※外国人材は全てフィリピン人男性

経営規模 : 合計2.1ha(うち半分が借入地) うち露地1.3ha(小ぎく)、平張施設83a(小ぎく63a、アレカヤシ20a)

ポイント

- ☆ 就農当初の経営規模は約1.1haであったが、外国人材を受け入れてから借入地を増やし、2.1haまで拡大。安定した労働力を得て、出荷品の品質も向上し収益増加につながった。

【農業振興】

- ・ 小ぎくは、沖縄北部花卉園芸組合を通じて全体の95%が県外へ出荷され、主に大阪、九州市場で取引されている。県内には沖縄県くみあい生花(株)からの受注分を出荷。
- ・ 連作障害対策として平張施設内で11月～2月にビニールを被覆し、太陽熱土壌消毒を実施。
- ・ 平張施設や自動結束ロボット付選花機を県等の補助事業を活用して整備。

【外国人材】

- ・ 特定技能外国人は県外の登録支援機関を通じて令和4年1月と8月に1名ずつ受入れ。うち1名は外間氏の下で技能実習2号(3年間)修了後、特定技能に資格を移行し、同氏が直接雇用。
- ・ 播種から選別・出荷まで(トラクターの操縦を除く)を担当し、外間氏の下で農作業に従事して6年目になる上記特定技能外国人が中心となり、自分たちで考えて作業をこなす。
- ・ 農薬の希釈作業時は外間氏も一緒にラベルを慎重に確認し、農薬の適正な使用を徹底。
- ・ 外間氏は外国人材とコミュニケーションを絶やさず、登録支援機関の面談でも、不安や不満がないか聞くようにしており、在留期間満了まで同氏の下での勤務を希望しているとのこと。

【外国人材の居住環境等】

- ・ 外間氏が所有する集荷施設の裏に外国人材用の住居を整備(徒歩出勤)。
- ・ 週に1回外間氏の運転で、金武町のスーパーへ買出しに連れていく。
- ・ 外国人材3名は、インドネシア人や日本人の知り合いとの交流があり、地域にも溶け込んで、休日はリフレッシュできている。



ネット施設に雨が落ちるなか、特定技能外国人による苗床整備作業の様子(恩納村)



特定技能外国人による挿し芽作業の様子(同上)

6. 特定技能外国人の労働力を得て花き類の多品目を安定出荷(宇江城 安勝氏)

【経営の概況(令和4年11月現在)】

所在地 : 沖縄県国頭郡恩納村

従業員 : 家族1名、特定技能外国人1名(フィリピン人男性)、日本人パート2名(繁忙期)

経営規模 : 合計1.7ha うち露地26a(ヘリコニア)、施設1.3ha(平張施設等1.2ha(ヘリコニア、オクラレルカ、ドラセナ等)、ビニールハウス10a(アレカヤシ))

ポイント

- ☆ 特定技能外国人は、宇江城氏の下で技能実習を修了しており勤続5年目となる。花き類生産の経験が豊富で高い技能を習得しており、作業が格段に早い。

【取組状況等】

- ・ 花き類は全て沖縄県花卉園芸協同組合を通じて県外出荷し、ヘリコニアや葉物は生け花教室での稽古や展示会の花材、行事用として使用されている。
- ・ 平張施設の導入は災害に強い栽培施設の整備事業(沖縄振興特別推進交付金)を活用。
- ・ 外国人材の受入れに備え、補助事業の対象品目以外の品目も栽培できるように自作でネット施設を整備し収入が増加。

【外国人材】

- ・ 平成27年に居住地域において、宇江城氏を含む3戸で外国人研修生を2名ずつ雇用したことから、外国人材の受入れが始まり、技能実習制度や特定技能制度の活用につながった。
 - ・ 農薬の希釈と散布(宇江城氏が担当)以外の栽培管理から選別・出荷までほとんどの作業を外国人材が担当(ヘリコニア等は植替えが5年~10年に1回でトラクターの使用はあまりない)。
 - ・ ヘリコニアやオクラレルカ等の選別・調整は、専用の花ロボはなく、手作業で時間も要する。
- 現在の出荷規模を維持するためには、技能実習も宇江城氏の下で修了した特定技能外国人のノウハウが必要不可欠(多品目栽培では全ての作業を覚えるのに年数を要する)。

【外国人材の居住環境等】

- ・ 親戚所有空き家のトイレを水洗式にしたり、内装をきれいにして提供。ほ場や集荷施設までの通勤は徒歩圏内。年2回の地域清掃にも参加し、地域に溶け込んでいる。
- ・ 自己所有のバイクで買物等に行き、友人と本島南部に遊びに行くこともある。



雨のなか特定技能外国人が平張施設でヘリコニアを収穫している様子(恩納村)



特定技能外国人によるヘリコニア(ファイヤーバード)出荷調整作業の様子(同上)

7.もやしの通年安定生産に貢献する特定技能外国人ら(農業生産法人株式会社 まえさと)

【経営の概況(令和4年10月現在)】

所在地 : 沖縄県西原町

従業員 : 日本人19名(うち正社員16名)、特定技能外国人1名、
技能実習生1名(10月中旬にもう1名受入れを予定) ※外国人材は全てミャンマー人男性

生産規模 : もやしを1日に4t生産、栽培スペースが7つ(毎日収穫するため工場は休みなし)、工場敷地2,700m²

ポイント

☆無休のもやし工場で、フルタイムで勤務する特定技能外国人の実践を積んで安定した労働力は極めて重要

【もやし生産状況等】

- ・ もやしは浸漬から出荷まで1週間、温度管理を徹底し、全て工場施設内で生産。
- ・ 県内大手小売等多数の取引先へ出荷。同社生産量は県内で9割を占め、沖縄のチャンプルー料理等に欠かせないもやしの生産を支えている。
- ・ ひげ根や排水に混じって排出されるもやしは排水と分離させ、圧縮機で圧縮し、家畜の餌にするなど産業廃棄物削減に取り組んでいる。
- ・ 生産施設において、熱湯殺菌、次亜塩素酸ナトリウム液消毒を実施し、衛生管理を徹底。

【外国人材】

- ・ 同社の技能実習修了生が特定技能へ資格を移行してそのまま同社で就労。
- ・ 県外の登録支援機関により、毎月訪問・面談があり、外国人材へのフォローアップを徹底。
- ・ 特定技能外国人、技能実習生共に週5日勤務で、休日をずらしている。
- ・ 作業は栽培管理(もやしの取り出し等)、袋詰めや包装、工場内設備等洗浄を担当。
- ・ 衛生管理等の危険を伴う作業時には、工場長から事故がないよう注意喚起。

【外国人材の居住環境等】

- ・ 工場から自転車で20～30分のところに3LDKの住居を確保(家賃は会社負担)。
- ・ 工場や外国人材住居にWi-Fiを整備し、母国の家族と休憩中や休日に連絡を取れるよう配慮している。
- ・ コロナ禍の前は、外国人材の歓迎会や送別会を開催していた。



左から技能実習生、特定技能外国人、
平田工場長(西原町のもやし工場内)



農業生産法人 株式会社まえさともやし
工場の外観

8. 特定技能外国人が小ぎくの大規模生産に大きく貢献(農業生産法人株式会社 IKEHARA)

【経営の概況(令和4年10月現在)】

所在地 : 沖縄県読谷村

従業員 : 特定技能外国人3名(カンボジア人男性)、日本人従業員9名(うちパート3名)

経営規模 : 合計5.7ha うち観光農園(サンセットファーム)約1ha、露地66a(オクラ、さやいんげん等野菜類)、平張施設 約4ha(小ぎく、スプレイぎく) ※平張施設の作付延べ面積は5.3ha

ポイント

☆ 外国人材は作業が早く、何事にも真面目に取り組む同社の必要不可欠な労働力となっている。

【同社の取組】

- ・ 観光農園(ひまわり)は11月からオープンを予定しており、収穫・植付け体験、夜間はライトアップによるイルミネーション効果で写真映えもすることから、例年多くの来園者がある。
- ・ 小ぎく、スプレイぎくは平張施設で大規模な生産をしており、JAを通じて県外出荷。

【外国人材】

- ・ 苗の管理から選別・出荷まで、トラクターの操縦以外は全てでき、注意事項を伝えたらあとは全て自分でこなす。管理業務や観光農園に関する業務は日本人従業員が担当。
- ・ 令和4年4～5月から県外の登録支援機関を通じて受入れ。
- ・ 1日の休憩の時間帯は季節で変動。
- ・ 給与は基本給(月給)を設け、天候不順や、体調不良で勤務ができなくても定額を保証。

【外国人材の居住環境等】

- ・ 代表者の親類名義の一軒家に住ませ、日本人従業員が車で住居からほ場まで送迎。
- ・ 外国人材の住居で週1回程度懇親会をしており、日本人従業員も度々誘われて参加。
- ・ 外国人材を受け入れた際、日本人従業員が美ら海水族館に連れて行くなど、沖縄での生活を楽しくもらえるよう配慮。
- ・ 2週間に1回、日本人従業員がディスカウントショップに食料品の買出しに車で連れて行く。



ひまわりを植付けてオープンの準備が進むイルミネーション観光農園(読谷村)



平張施設で特定技能外国人が小ぎく収穫後の残渣処理作業をしている様子(同上)

9.外国人材らと石垣島パインによる6次産業化の取組を実施(株式会社石垣島SUNファーム)

【経営の概況(令和4年12月現在)】

所在地 : 沖縄県石垣市

従業員 : 社員5名、特定技能外国人2名(インドネシア人男性)、技能実習生2名(ベトナム人男性)

※特定技能外国人2名が結婚のため帰国中で、令和5年2月に再度直接雇用予定。

経営規模 : 合計14.2ha うち露地14ha(パインアップル)、鉄骨ハウス20a(マンゴー)

ポイント

- ☆ 法人化して6次産業化に取り組んでからパイン栽培面積が倍増し、販売先も多方面に拡大。
仕事に対して貪欲で作業も早い外国人材を受け入れたことで、労働生産性が飛躍的に向上。

【農業振興】

- ・ 同社の主な取扱品目はパインアップルで、ティダパイン®は同社で商標登録。
- ・ パイン商品は、同社ネット販売や本島卸売業者を通じてテレビショッピングを活用するなど、県内外へ幅広く販売。また、ふるさと納税返礼品としても取り扱われている。
- ・ 同社は汚泥肥料や有機肥料の研究に積極的に協力。生活排水から炭に吸収させ、リン等栄養成分を抽出した汚泥肥料を利用しており、SDGs推進や環境保全に配慮した農業を実施。パイン母樹等を原料とした植物性堆肥も使用するなど土づくりを試行錯誤。

【外国人材】

- ・ 特定技能外国人は令和4年4月から県外の登録支援機関を通じて受け入れており、同機関は月1回対面での面談を実施するなどサポートが手厚い。
- ・ パイン苗の管理から選別・出荷、加工までほぼ全ての作業を担当(栽培管理では主に草取りや植付け、収穫作業に従事)。
- ・ 特にパイン収穫期(4月～7月)は人手が必要になるため、外国人材のマンパワーに支えられて経営が維持できている。繁忙期は外国人材の希望もあり超過勤務を実施。
- ・ **トラクターの操縦や農薬の希釈・散布作業は、日本人が担当し、外国人材の安全面に配慮。**

【外国人材の居住環境等】

- ・ 同社がほ場近隣にアパートを借り上げており、外国人材は自転車にて通勤。
- ・ **外国人材は自動車免許非保有のため、同社代表が週1回近隣スーパーに買出しに連れて行く。**また、親睦を深めるために歓送迎会やバーベキューを開催している。



当銘代表(中央)と特定技能外国人2名
(石垣市の同社加工センター・直売所)



露地ほ場でマルチ栽培されている
パインアップル(石垣市)

10.特定技能外国人らの労働力をフル活用して大規模肉用牛繁殖経営(株式会社八重山石垣牧場)

【経営の概況(令和4年12月現在)】

所在地 : 沖縄県石垣市

従業員 : 日本人7名(社員4名、派遣1名、再雇用2名)、「技・人・国」外国人材2名(ミャンマー人女性)
特定技能外国人3名(フィリピン人男性2名、女性1名)、特定活動1名(ベトナム人女性)

経営規模 : 本場・ばんな岳牛舎: 畜舎数19棟(繁殖母牛1,500~1,600頭、繁殖子牛700~1,000頭、肥育牛50頭)
島田牧場: 畜舎数1棟(繁殖母牛50~80頭、繁殖子牛50~80頭) ※本場牛舎の飼養頭数は預託分を含む

ポイント

☆ 人材派遣会社からの外国人材への母国語によるサポートと派遣先農家への支援が充実。

【畜産振興】

- ・ 出荷する肉用牛の98%は県外出荷(宮崎、和歌山、福岡、香川、京都、鹿児島)で、海上輸送が難しそうな残り2%の肉用牛は、八重山家畜市場に出荷。
- ・ 同社が出荷する肉用牛は「八重山石垣牧場の黒毛和牛」ブランドとなっており、肥育牛は県外精肉事業者を通じて販売。
- ・ 耕畜連携の取組として、牛糞は堆肥舎で切り返して堆肥化したものを関係牧草農家等に提供し、当該農家から牧草ロールを購入。
- ・ 肉用子牛生産者補給金や飼料価格安定基金を活用し、肉用牛生産の安定を図っている。

【外国人材】

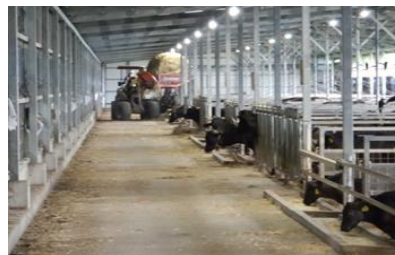
- ・ 特定技能外国人材は(株)アルプスアグリキャリア(人材派遣会社)を通じて在留資格を特定活動(外国人農業支援人材)から特定技能に移行するなどして派遣形態で受入れを開始。
- ・ 飼養管理全般(重機の操縦含む)及び畜産物の出荷に関する作業を担当。
- ・ 毎日、朝礼・終礼を実施。朝礼では1日の作業の流れを確認し、終礼では各チームの業務終了をタブレットから事務所に報告させ、事故等の異常がないか確認を徹底している。

【外国人材の居住環境等】

- ・ 人材派遣会社がアパートを契約したり、同社が住居を提供し、通勤は同社従業員が送迎。
- ・ 食事会や歓送迎会、忘年会を開催。先輩後輩が助け合って生活している。
- ・ 外国人材が周辺離島や他県に観光に行きたいと希望があった際は、まとめて有給が取れるよう優遇。



肉用牛(母牛)への給餌等管理作業を終えた特定技能外国人(石垣市)



大型重機を使用して、牛舎奥から効率よく給餌作業をする特定技能外国人



特定技能外国人の男女と佐藤場長(中央)

11.特定技能外国人らと冬春野菜類を大規模生産(農業生産法人合同会社 渡真利農園)

【経営の概況(令和5年1月現在)】

所在地 : 沖縄県宮古島市

従業員 : 社員4名、日本人パート3名(冬春期)、特定技能外国人3名、技能実習生2名

※外国人材は全てインドネシア人男性

経営規模 : 合計10.8ha うち露地9.6ha(かぼちゃ9ha、さとうきび60a)、鉄骨ハウス1ha(ピーマン・パプリカ80a、なす・ゴーヤー20a)、パイプハウス20a(きゅうり) ※露地の作付延べ面積は18.6ha(かぼちゃは年2回作付け)

ポイント

☆ 外国人材は皆真面目で仕事熱心。彼らの安定したマンパワーが同社の経営発展を大きく後押し。

【農業振興】

- ・ 同社は「かぼちゃ(栗系)」が主力品目であり、5～6か所の販売先と契約している。
- ・ 出荷農産物全体の90%以上を県外出荷。残りの5～10%は県内青果卸売業者に出荷。
- ・ 当社は、家畜糞尿、生ごみ、選定枝等を原料とする堆肥を市内リサイクルセンターから仕入れている。また、一部販売先から要望を受けて化学肥料等の使用を抑える特別栽培しており、環境保全に配慮した農業に取り組んでいる。
- ・ 令和3年に規模拡大のため制度資金を活用して農地を取得。また近年、市の補助事業でパイプハウスを整備しており、今後さらなる増設を計画。

【外国人材】

- ・ 特定技能外国人3名は令和4年10月に県外の登録支援機関を通じて受入れ。
- ・ 7年前から技能実習生を受け入れており、現在在籍している実習生は3期生。
- ・ 外国人材は苗の管理から収穫までの作業を担当している(農薬の希釈や散布、選別作業はそれぞれ担当者が決まっており、いずれの作業も日本人が担当)。
- ・ 特定技能外国人は受入れ間もないため、今後キャリアアップや処遇改善を検討。

【外国人材の居住環境等】

- ・ 代表の自宅を改装し、外国人材用の部屋(5室)を確保している(Wi-Fi完備)。
- ・ 住居からほ場までは自転車や徒歩にて通勤。食料品等は近隣スーパーで自分たちで買出し。近隣に居住する職場外の同国人とも交流が盛んで、楽しく生活している。



施設内で特定技能外国人らがピーマンの栽培管理をしている様子(宮古島市)



左から島袋営業部長、技能実習生、特定技能外国人(同上)

12.本島北部の屋我地島で特定技能外国人とパインアップル等果樹を生産(有限会社ゼント)

【経営の概況(令和5年2月現在)】

所在地 : 沖縄県名護市屋我地

従業員 : 日本人1名、特定技能外国人1名、技能実習生1名 ※外国人材は全てベトナム人男性

経営規模 : 合計2.2ha うち露地1.5ha(パインアップル)、施設66a(マンゴー)

ポイント

☆ 特定技能外国人の果樹栽培の高い技能と、丁寧で早い仕事ぶりに全幅の信頼。

【農業振興】

- ・ 同社は令和2年から農業部門を開始し、パインアップルとマンゴーを栽培している。
- ・ パインアップル、マンゴー共にJAおきなわに出荷。
- ・ マンゴー施設は令和2年度災害に強い高機能型栽培施設の導入推進事業を活用。
- ・ 同社役員家族がフルーツカフェを経営しており、6次産業化に取り組めないか検討中。

【外国人材】

- ・ 特定技能外国人は令和3年4月に県内の登録支援機関を通じて直接雇用。
- ・ 外国人材は農業分野で3年間の技能実習を修了し、特定活動でもパイン生産等に従事した経験があり、高い技能を持つ。同社は農業事業に参入してまだ間もないこともあり、果樹栽培についてアドバイスをもらうこともある。
- ・ 外国人材は農作業全般と出荷までの作業を担当しており、トラクター等機械類の操縦も任されている。マルチングや草刈り機での除草等、全ての作業が非常に丁寧で早い。
- ・ 同社は外国人材と家族同様に接し信頼関係を構築。いつも気にかけている母国の家族に何かあれば、帰国させるように配慮している。
- ・ 登録支援機関は定期的に巡回・面談し、公的保険等についても丁寧に説明するなど、同社取締役とも連携して外国人材に対して手厚い支援を実施。

【外国人材の居住環境等】

- ・ 取締役が民泊にも使用するペンションを所有しており、外国人材に宿舎として提供。
- ・ 宿舎はほ場から近くにあり、外国人材は自転車で移動。
- ・ 外国人材の買物は、取締役が休日に市街地の商業施設に車で連れて行く。



マンゴー施設外観(写真上)と加工用パインの露地ほ場(写真下)(名護市屋我地)



左から松田取締役、特定技能外国人(同上)

13. 特定技能外国人がすいか等の大規模栽培及び集出荷作業でフル稼働(有限会社今帰仁すいか)

【経営の概況(令和5年2月現在)】

- 所在地 : 沖縄県今帰仁村(集出荷施設340㎡、借上農地33a)
従業員 : 社員8名、パート2名(通年、週3日勤務)、特定技能外国人2名(ベトナム人男性)
組合員 : 正組合員12名、准組合員30名(1戸あたり経営規模66a~1ha、全体の9割が施設で残り1割が露地)施設(すいか、ゴーヤー、きゅうり)、露地(キャベツ) ※すいか、キャベツは年3回作付け

ポイント

☆ 同社は組合員等の農作業を請負い、特定技能外国人材が組合員の農作業や同社の集出荷作業に従事。

【同社の取組】

- ・ 同社で取扱うすいかは「今帰仁すいか」というブランドで、年間を通じて県内向け8割、県外向けに2割を出荷。今帰仁村産すいかの3割程度を集出荷し、その取扱量は県内トップ。
- ・ 同社組合員等は5月ごろまでは施設でゴーヤーを生産する者もいるが、それ以降はすいかのみを栽培する者が多い。
- ・ 鶏糞堆肥や数種類の土を混ぜて良質な土づくりを実施しており、連作障害はない。
- ・ すいか需要のピークであるお盆シーズンは、9,000箱(4玉/箱)を県内大手量販店に出荷。

【外国人材】

- ・ 特定技能外国人2名は同社役員が設立した登録支援機関を通じて令和4年10月に受入れ。
- ・ 苗の管理から選別・出荷までほとんどの作業を担当しており、特に収穫や人工授粉は一つずつ手作業によるもので、非常に労力を要する。防除や耕運作業は日本人が担当。
- ・ 勤務形態は週5日、1日8時間を基本とし、外国人材の希望により休日出勤も実施。ただし、月の勤務日数上限を定めてオーバーワークにならないよう留意。

【外国人材の居住環境等】

- ・ 同社がほ場近隣にアパートを借り上げて外国人材に提供。自転車にて通勤。
- ・ 社員等が食事や闘牛大会に連れて行くなどリフレッシュの機会を設けている。また、外国人材は自動車免許非保有のため、週に1回、車で本部町へ食材等の買出しに連れて行く。
- ・ 外国人材は休日にはバスで周辺市町村に遊びに出かけており、他国からの人材とも交流を深めている。



国・県の補助事業で整備された施設で栽培されているすいか(今帰仁村)



特定技能外国人によるゴーヤー箱詰作業の様子(同社集出荷施設)



国・県の補助事業で整備されたすいか選別機(同上)